

プロジェクト ASAF 対応

項目 のれん及び減損に関する定量的な調査

本日の議題

1. 本日は、国際会計基準審議会（IASB）の依頼を受け、当委員会事務局が欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）事務局と協力して行っているのれん及び減損に関する定量的な調査についてご説明する予定である。

(配布資料)

2016 年 7 月の ASAF 会議において報告する予定の資料の概要

- プレゼンテーション資料（ASAF 会議アジェンダ・ペーパー6）
「Quantitative Study on Goodwill and Impairment」（審議事項(2)-4-2）
- プレゼンテーション資料付属資料（ASAF 会議アジェンダ・ペーパー6 付属資料）
「Outline of Quantitative Study and Back Data」（審議事項(2)-4-3）

経緯

2. 2016 年 2 月の IASB ボード会議において、のれん及び減損プロジェクトについて議論が行われた。その際、のれんの事後の会計処理に関連して、のれんの残高等がどのように変化したかを含む客観的なデータを収集することが必要であるといった見解が複数の理事から示された。
3. 当委員会事務局は、IASB からの依頼を受け、EFRAG 事務局と協力しつつ、のれんの残高の推移等に関する定量的なデータの分析を行っており、2016 年 5 月の IASB ボード会議（5 月 19 日）において経過報告を行った。当委員会においては、5 月 11 日及び 5 月 30 日開催の会議において、IASB ボード会議にて経過報告した資料及びボード会議において聞かれた意見をご説明した。
4. 今後、2016 年 7 月に開催される予定の ASAF 会議において、IASB ボード会議で聞かれた意見にも一部対応して更新した資料を用いて経過報告を行う予定である。

ディスカッション・ポイント

当委員会事務局が EFRAG 事務局と協力して行っているのれん及び減損に関する定量的な調査について、ご質問等があればいただきたい。

以上